

平成17年度北海道支所一般公開報告

今年も7月2日(土曜日)に、北海道農業研究センターとの共催で一般公開を実施しました。当日は天候にも恵まれ、昨年の一般公開来場者の1,635名を大幅に上回る2,030名の来場者がありました。今年度、当支所のブースは北農研の正面玄関脇というベストポジションを割り当てていただいたこともあり、当支所ブースの見学者は600余名にものぼりました。

当支所は昨年同様「動物を守る ヒトを守る」をテーマに動物衛生研究所の紹介ビデオの上映、パンフレットの配布、パネルの展示等により、動物衛生研究所並びに北海道支所の使命・業務と各研究室の研究内容について説明を行いました。また、新たに動物組織や細菌の染色標本の顕微鏡による観察や、臓器標本や生きたダニの展示を実施するとともに、ウサギとのふれあい広場も設けました。

展示パネルに対する質問は、やはり社会問題化しているBSEや高病原性鳥インフルエンザに関することが多く、見学者の関心の高さを感じました。それに比べれば当支所の研究内容についての質問は少ないように思われましたが、「牛の病気、遺伝子について勉強になりました」という60歳代男性のアンケート回答もあり、一般公開を実施して良かったと救われた思いです。

つくばでの科学技術週間における一般公開でも経験して



いるように動物と直接ふれあうことができるコーナーは人気が高く、終日家族連れで賑わいました。動物を抱きその温かさを知り、恐る恐る聴診器で動物の心音を聞いてみることで、生きていることや命の尊さを考えてもらえた事と思います。一般公開は動物衛生研究所並びに北海道支所の様々な活動を多くの人に知ってもらえた有意義な機会であったと思います。来年はより多くの方々が動物衛生研究所並びに北海道支所の業務・研究紹介にも関心をもっていただけるよう、支所全員が一丸となって考えていきたいと思っています。

(北海道支所一般公開事務局)

